西村証券

2026年6月19日 発行

チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

第118回「金先物価格の急落について」

今年1月下旬から2月にかけて、ニューヨーク商品先物市場の金先物価格は1トロイオンス（およそ31.1グラム）＝5,000ドルを超えていましたが、先週末（6月12日）の引け値は、1トロイオンス＝4,215.0ドルと2026年1月29日につけた史上最高値5,318.4ドルから▲20.7％下落しました。今週は急落している金先物価格についてお伝えします。

～金先物価格の動き～

昨年初からの金先物価格の動きを見てみましょう。裏面グラフ1をご覧ください。このグラフはニューヨーク商品先物市場の金先物価格（期近限月）の推移を2025年1月から週次で示しています。週次ベースの動きですので最高値が2月になっていますが、ここまでは上昇相場となっていました。その後、金価格は急落しています。市場ではこの急落の要因を米国10年国債利回りが上昇したことを挙げています。では、同期間の米国10年国債利回りの動きを見てみましょう。裏面グラフ２をご覧ください。グラフ1と同じ期間、同じ週次のグラフです。このグラフを見ると確かに2026年3月から直近まで利回りは上昇しており、金価格下落要因として考えられると思います。しかし、2025年4月から6月までを見ると10年国債利回りは上昇していますが、この間、金価格は上昇しています。では、この違いは何なのでしょうか？この違いは米ドルの強さの違いであると考えます。

裏面グラフ3をご覧ください。このグラフは1米ドルをユーロで換算したグラフです。そのため、グラフが下落すると米ドル安、上昇すると米ドル高となります。期間は上記2つのグラフと同じです。このグラフを見れば2025年1月から7月にかけて米ドルは対ユーロで値下がりし、その後2026年2月まで1ドル＝0.84～0.87前後での横ばい状況となっていました。その後、イランへの軍事作戦が始まり、原油価格が高騰した時から米ドルはユーロに対し上昇しました。通常、金先物価格は米ドルで値付けされているため、米ドルがユーロに対して下落すれば金価格は上昇し、逆にユーロに対し上昇すれば金価格は下落する動きとなります。3月以降に金価格が急落したのは10年国債利回りの上昇に加えて、米ドルがユーロに対して上昇したことが挙げられると考えます。

もう一歩踏み込んで考えると、イランへの軍事作戦で原油を採掘できる国（米国）と出来ない国（EU諸国や日本、韓国などのアジア諸国）との違いが通貨の動きを変えたと言えます。

～今後の金価格～

今後の金価格の動きですが、米国とイランの停戦交渉が合意したとの報道も流れており、原油価格は早晩値下がりしていくと考えます。しかし、ホルムズ海峡の航行が即座に軍事作戦前の状況になるとは考えられず、供給不安が継続することになるため、金先物価格は先ずは下落基調から横ばい状況になると想定しています。ただ、世界の分断は強くなるばかりであり、世界経済のインフレ状況は暫く変わらないため、いずれ金先物価格は再び上昇局面に移行していくと想定しています。

西村証券株式会社　NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.
京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地(本社)
TEL：075-221-9390(本店営業部)

金融商品取引業者　近畿財務局長(金商)第26号
加入協会：日本証券業協会　主な事業：金融商品取引業
指定紛争解決機関：特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター

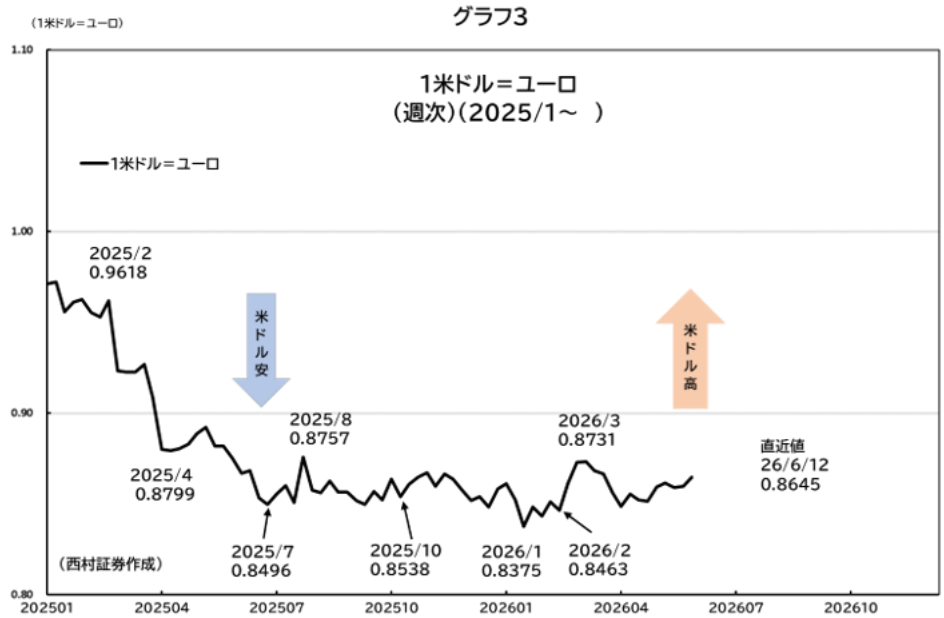
本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したものではなく、あくまで情報提供を目的とした書面です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の承諾なしに、第三者への配布・複製等はお控えください。

西村証券

グラフ1

グラフ2

グラフ3



本書面の著作権は当社に帰属します。当社の承諾なしに、第三者への配布・複製等はお控えください。